

木が、暮らしを「面白く」する

12区画の完成宅地での注文住宅を計画する中で、分譲住宅として1区画の企画住宅を計画しました。
4人家族を想定した1.5階建てのこの木のすまいは、個人の居場所を固定するのではなく、住まい手がその時々で居場所を選択し、そこから見える木の表情を楽しめるよう、考えています。
暮らしを、木を、心から楽しむということを重視し、内外装に兵庫県丹波市の杉材を主として採用しました。
木が時と共に表情を変えるさまを最大限に楽しむため、その変化が「劣化」ではなく「味わい」となるよう、木の特性を活かした計画を行い、耐久性も確保しました。外壁と床材は、製材工場と連携し、製材および加工の既存工程の中から、新たな製品化に取り組みました。これにより、製材および建築の両視点から、新たな木材活用の可能性を見出しました。
本計画では、環境や時間と共に変化する木材の特性を活かし、無塗装にできる施工方法を検討しました。また、方位などいくつかの環境差を設けることで、施工時の均一な表情が、時を経て唯一無二の風合いへと変わっていくことを意図しています。
これは、単なる住まいではなく、木と人が対等に向き合い、共に時間を重ね、暮らしを「面白く」する建築の試みです。

【建物性能】	【木材の産地】
5地域、ZEH（BELS） 認定長期優良住宅 建設性能評価 耐震等級3 許容応力度計算 ウォールスタット	構造材：兵庫県宍粟市（杉・桧） 内装材：兵庫県丹波市（杉） 鹿児島県屋久島町（地杉）
断熱等級6（UA値0.4） 一次消費エネ等級6 詳細外皮計算Q値1.51 C値0.2	造作材：兵庫県宍粟市（杉） 兵庫県丹波市（杉） 外装材：兵庫県丹波市（杉） 駐車場：兵庫県丹波市（杉） デッキ：兵庫県丹波市（杉） 兵庫県神戸市（桧） 門柱等：製材所ストック材（樺、花梨、栴檀）



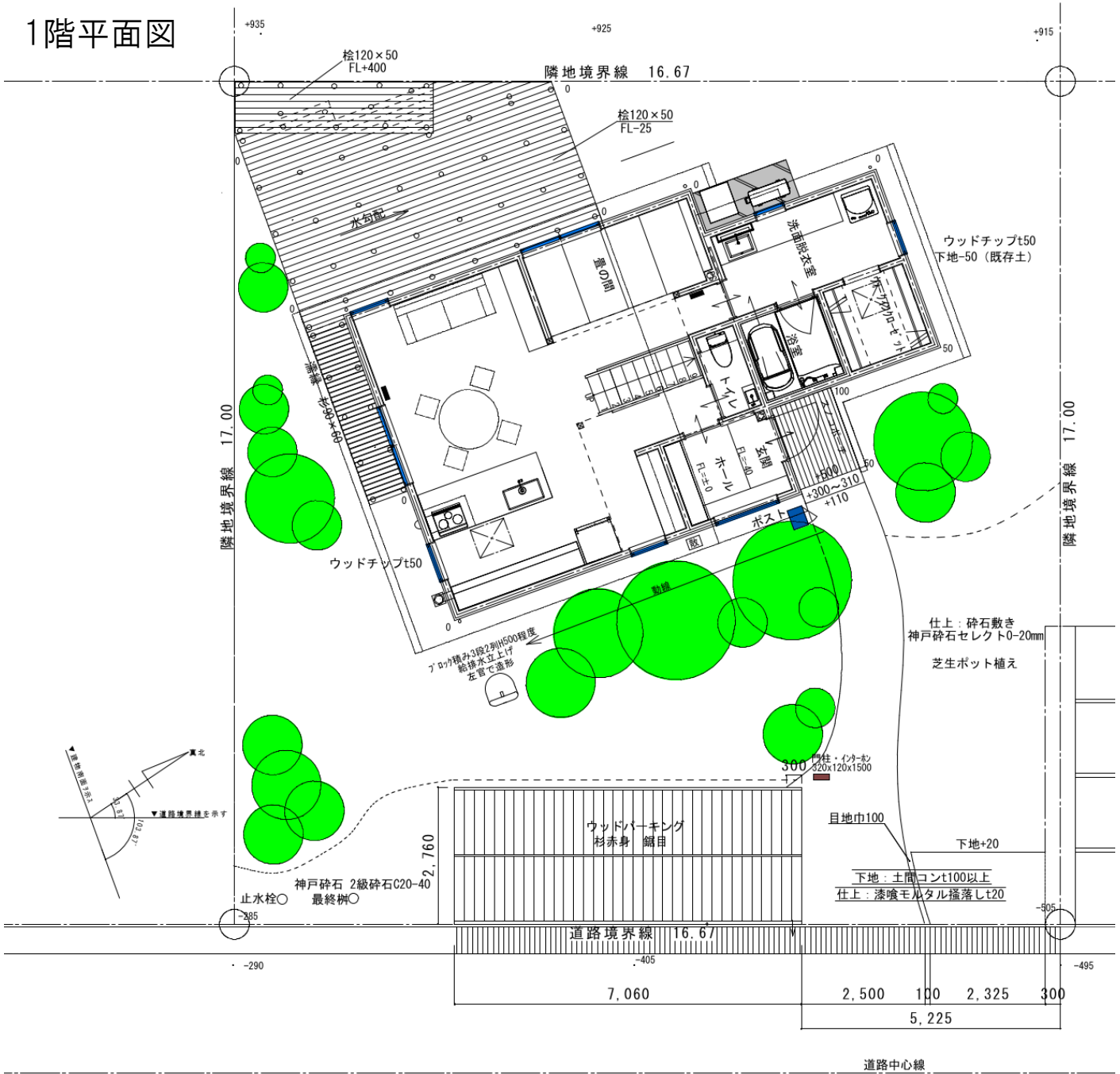
敷地は、周辺街区に対して南西に60度振れた、約85坪の分譲地です。私たちはこの斜めの配置を活かし、敷地の三角地を隣接する広場と一体的に活用する計画としました。南西の三角地に隣地との高低差を解消して地続きとなるウッドデッキを設けました。このデッキには、神戸市産桧材を使い、床下には土間コンクリートを打たず、廃材になった木くずからできた破碎チップを80mm敷き詰めることで土間コンクリートを省略しつつ雑草対策を施しました。

デッキ床面も無塗装とし、大引きと床板の縁を切り、水勾配を設け、隠しビス留めとすることで、雑草除けと共に湿気による腐朽対策を行い、健全な経年変化を促しています。また、施工時の端材をレンガ状にウッドチップ敷きに並べた小道は、腐朽しやすい環境下に置くことで、床板の状態を測る目安の役割も担っています。

外壁は、杉の鎧張り（下見板張り）としました。一部にクロス胴縁の上、縦の鎧張りとして張り方向を変更して施工している、外壁の方位毎の色変化と合わせて、張り方向の違いによる色変化も見所となっている。木材の性質上、灰色化の進行が遅い場合は、黒色腐朽菌が点カビのように発生し、黒く変色させるため、軒の出を押えた面と南側の軒の出を設けた箇所を作り、妻壁の面は灰色化が進むように計画した。灰色化が裏面まで進行すると、木割れが発生するため、厚みを18mmとして対策しました。東面は朝陽で夜露が乾くため灰色化が進行しており、西面は夜露が乾かないため、黒色化も同時進行している。南面は軒の出があり陽光に当たりにくいいため、色の変化が緩やかである。屋内では、床の37mm厚床にした兵庫県産杉材との差を感じてもらうため、建築地である加東市の畳屋さんと藁床に綿縁をしたい草表の畳の間、ウールカーペット敷きに徳島県の藍を使った土壁の藍の間、同じく、デッドストックの花梨材を張った花梨の間を計画しました。屋根形状のままの勾配天井には、内地の杉とは雰囲気違った杉産地の最南端である屋久島町産屋久地杉を施工した。素材や産地の差を体感できるので、住まい手が暮らしの中で自然と違いを楽しみ、地域とのつながりを持てる計画としている。



1階平面図



2階平面図

